

研究・調査報告書

報告書番号	担当
135	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
A comparative multi-level analysis of contextual drinking in American and Canadian adults. アメリカ人及びカナダ人成人における飲酒背景の多段階解析	
執筆者	
Kairouz S, Greenfield TK.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2007 Jan;102(1):71-80.	
キーワード	
断面的国際比較、人口統計学的変数、飲酒背景、多段階解析、いつもの飲酒量	
要 旨	
<p>目的： アメリカ人成人とカナダ人成人を比較することによって、飲酒状態に対する人口統計学的因子と飲酒背景との影響を検討した。</p> <p>方法： 飲酒背景（レベル1）と個人要因（レベル2）との2段階階層化モデルによる多段階解析手法を用いた。</p> <p>対象： 対象は、Canada's Alcohol and Other Drugs Survey(CADS,1994年実施)と National Alcohol Survey(NAS 9,1995年実施)の2つの研究の18歳以上の飲酒者からランダムに抽出した。アメリカ人の対象は、5,956回の飲酒背景（レベル1）について解答した2,304人（レベル2）である。カナダでは、13,235回の飲酒背景について回答した5,394人である。</p> <p>解析方法： 対象者は、1回の飲酒が、4つの飲酒背景（自分の家で一人で飲酒、友人や親戚と自分の家で飲酒、レストランで飲酒、バーや居酒屋で飲酒）のうちどれに相当するかとそれぞれの飲酒背景のときの飲酒量を回答した。また、人口統計学的情報として、年齢、性、教育レベル、収入、婚姻状況についても回答した。</p> <p>結果： 飲酒背景による飲酒量の違いを解析したレベル1では、アメリカでもカナダでも、飲酒背景によって、飲酒量が有意に異なることがわかった。個人要因による飲酒量の違いを解析したレベル2でも、一部の個人要因によって、飲酒量が有意に違うことがわかった。飲酒状態は、背景要因が25%を、個人要因がアメリカで25%、カナダで22%を説明可能であることがわかった。飲酒状態は人口統計学的特性（個人要因）と飲酒背景の複雑な関連で決定された。人口統計学的特性と飲酒背景の相互作用はアメリカとカナダの両方で見られるものもあるし、アメリカだけで見られるものもあった。</p> <p>結論： ポピュレーションヘルスの視点から、飲酒状態を実用レベルで解析し、介入することを考える場合、疫学的、予防的に多段階のアプローチが必要である。</p>	